

山形・大在家遺跡

だいざいけ

査まででは、堅穴住居跡や土坑、溝、ピット群などが検出された。

一九九七年の第四次調査で古代の河川を検出し、以降、一九九九年から二〇〇一年までに実施した第六次調査から第八次調査までで確認した河川も、同一の河川の延長部分である可能性が高い。

- 1 所在地 山形県東置賜郡高畠町大字高畠字大在家
- 2 調査期間 第六次調査 一九九九年（平11）五月～六月
- 3 発掘機関 高畠町教育委員会
- 4 調査担当者 井田秀和

- 5 遺跡の種類 集落跡・自然流路
- 6 遺跡の年代 飛鳥時代～平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

大在家遺跡は高畠町の中心部に位置する遺跡で、中世・近世の城館跡とされる高畠城跡と多くの部分で重複する。また、大在家遺跡

の所在する地区は、高畠町でも遺跡が集中する地区であり、日照遺跡、高畠町尻遺跡、渋作遺跡、明神崎遺跡、蝦夷塚遺跡などの古代遺跡がほぼ連続して所在する。

一九九一年・一九九二年の第一次調査から第三次調



（赤湯・米沢）

第六次調査では、調査区が狭小であったため、河川の西半部のみを確認した。検出した河川は、現在高畠町を流れる河川同様に東から西へ流れだと考えられる。河川の出土遺物は、須恵器・土師器を主体として、木器・木製品、木簡一点などである。

第四・七・八次調査では、須恵器や土師器に比べ木器、木製品が圧倒的に多く出土しており、その内容も多種多様である。製品はもちろんであるが、未製品も少なからず見られ、漆製品や多くの漆付着の土器の存在などから、製作に關係する集団の存在も想定される。

- 8 木簡の釈文・内容

(1) 「▽□

(103)×22×4 039

下部欠損。目視による觀察では全く確認できず、保存処理の段階で墨痕の存在が判明したものであるが、釈読できない。

（井田秀和）